

議員提出議案に対する討論 田口一登議員 (2020年7月6日)

## 減税ナゴヤの報酬800万円条例案

# 提案理由に「事実誤認」といいながら、出し直しもせず条例案に固執 政治的思惑を優先するパフォーマンス

7月6日に減税日本ナゴヤ市議団が提出した「議員報酬を年額800万円にする特例条例案」に対し、田口一登議員が反対討論を行いました。

### 減税ナゴヤの説明で議会が混乱、賛同できない事態に

この条例案は、議員報酬を一時的に引き下げるもので、本会議や総務環境委員会での質疑で、減税ナゴヤが「恒久的な報酬額（制度値）は民意を聴取しながら検討していく」という意向を示したため、この時点で賛同できる状況でした。

ところが、財政福祉委員会で、提案者である減税ナゴヤの議員から、提案趣旨説明に関し「誤解を与えるところもある」「事実誤認と言われても仕方がない点がある」と発言があり、該当部分の議事録削除をめぐって議会が混乱しました。提案理由に齟齬があれば取り下げて出し直すのが普通です。「これでは条例案に賛成できない」として、田口議員が討論を行いました。

以下、反対討論の内容を紹介します。

### 削減より政治的思惑を優先

日本共産党市議団は、議員報酬を特例的に800万円に削減すること自体を否定するものではありません。反対する理由は、提案趣旨説明をめぐる齟齬によって

議会を混乱させたにもかかわらず、提案者が本案に固執しているのは、自らの政治的思惑を優先するパフォーマンスと言わざるをえないからであります。

私は、本会議などでの私の質問にたいして減税ナゴヤが、今後は民意を聴取する手続きを伴わないで報酬の制度値を提案することはありえないとの認識を示したことから、本案に賛同できると考えていました。

ところが、本案が付議された総務環境委員会での質疑が終結した後に、本会議での提案趣旨説明における財源に関わる部分について、提案者の中から「誤解を与えるところもある」との発言があり、この部分の議事録削除を申し出たのに、翌日には取り消し、議会を混乱させました。提案趣旨説明の内容について提案者の間で事前の意思統一がなされておらず、問題となった箇所について認識もバラバラであることも明らかになりました。

提案理由に齟齬があることが判明した議案は、取り下げて出し直すのが筋ではありませんか。提案者の議案にしがみついた姿勢は、「コロナで苦しむ市民に寄り添う」という言葉とは裏腹に、報酬800万円を弄ぶものと言わざるをえません。



### 財政調整基金の残高推移

(名古屋市・各年度末・億円)



### 減税ナゴヤの幹事長が交代

この間の委員会での減税議員の対応をめぐり、減税の大村議員が幹事長・議運理事を辞任しました。

### 報酬問題での日本共産党の考え

議員報酬は特例的に800万円に戻し、新たな報酬額（制度値）は市民参加の第三者機関で議論して決めるというのが日本共産党市議団の立場です。800万円から1450万円に引き上げられて以降、増額された手取り分は使わずに寄付する態度で臨んでいます。